

住宅用火災警報器 奏功事例一覧

住宅用火災警報器を設置したことにより、火災に至らなかつたり、または火災になつても、早期発見によつて消し止められ、負傷者が発生せず済んだ効果的な事例を大津市と全国とに分けて掲載しています。

【大津市で実際にあつた効果的な事例】

事例1

母親が煮物をしながら、玄関先で米の袋詰めをしていたところ、台所に設置してある住宅用火災警報器の音声で異常に気づいた息子がガスコンロの火を止め、危うく火災になるところを免れた。

事例2

家人がコンロで魚を焼いている途中にその場を離れたため、時間経過とともに魚が薫焼し、煙が建物内に充満した。その煙を感知した住宅用火災警報器が鳴動し、コンロの異常に気付くことが出来た。

事例3

留守宅から聞こえる住宅用火災警報器の鳴動音に気付いた隣人が、部屋から煙が出ているのを発見し119番通報した。屋内では、ガスコンロに鍋がかけ忘れられており煙が噴出していたが、ガスコンロを止めることが出来たため火災に至らなかつた。

事例4

留守宅から聞こえる「火事です」との音を不審に思い、隣人が119番通報した。屋内は白煙が充満し、台所に設置されている煙式の住宅用火災警報器が鳴動中であり、台所のガスグリルは火が着いたまま放置され、魚が焦げていたが他に焼損物がなく火災に至らなかつた。

事例5

近隣住民が住宅用火災警報器の鳴動音を聞きつけ、玄関を開けると煙が充満し玄関横の和室に倒れた男性を発見し、119番通報。鍋の空焚きにより1階台所の住宅用火災警報器が鳴動したが、鍋の焦げ付きのみであり火災には至らなかった。住民男性にあっては飲酒し寝ていただけで、負傷者なし。

事例6

隣家の台所に設置された住宅用火災警報器が鳴動しているのを隣人が聞きつけ、煙が出ているのに気づき、台所の天ぷら鍋から出火しているのを発見。

隣人は119番通報するとともに消火器で初期消火を試みるも鎮火に至らなかったが、早期通報による消防隊到着により火災はぼやで済んだ。

事例7

家人が夕食用におでんを調理中、火を消したと思い違いし、ガスコンロの火を付けたまま外出してしまった事例。

1階台所や他の部屋に設置された複数の住宅用火災警報器が鳴動しているのを隣人が聞きつけ、滋賀県警へ通報し、滋賀県警から消防へ入電。早期通報による消防隊到着により鍋の内容物が焦げたことを確認したが、焼損はなく火災には至らなかった。

事例8

家人が昨日21時頃に台所で鍋をコンロに掛けて調理中、そのまま寝室で居眠ってしまった事例。

1時30分頃、寝室に設置されている煙式の住宅用火災警報器の鳴動音で家人が目覚めると付近に煙が漂っていた。台所に行くと、鍋の中身が焦げていたため、部屋の換気をしてから119番通報した。コンロ、鍋及び周辺に焼損はなく火災には至らなかった。

事例9

家人（世帯主の妻）が朝食用のブロッコリーを片手鍋で茹でていたことを忘れて外出したため、時間経過により片手鍋に野菜が焦げ付き、煙が発生。台所に隣接する居室に設置されていた住宅用火災警報器が煙に感知して鳴動したため、鳴動に気付いた世帯主の娘がコンロの火を消したことから、コンロ、鍋及び周辺に焼損はなく火災には至らなかった。

事例 10

店舗併用住宅の2階住宅ベランダにて、家人がさんまを焼くために電気魚焼き器のタイマーを20分に設定してそのまま放置し1階の店舗にいたところ、魚焼き器を設定してから40～50分後に2階台所に設置していた住宅用火災警報器が鳴動した。2階に上がると部屋が煙で立ちこめており、ベランダを確認すると魚焼き器が燃えていたため、住宅に備え付けていた消火器3本を使用して消火活動を行い、初期消火に成功した。

事例 1 1

家人が1階で午睡をしていたところ、階段上部に設置していた住宅用火災警報器が鳴動した。2階に上がると異臭を感じ、2階寝室内で布団が燃えているのを確認したため、住宅に備え付けていた消火器3本を使用して消火活動を行い、初期消火に成功した。

【他の市町で公表している効果的な事例】

事例 1（福島県郡山市）

家人が2階の寝室に石油ストーブをつけたまま、1階の食堂でテレビを見ていたところ、突然、階段の壁面に設置した住宅用火災警報器が鳴動した。2階を見に行ったところ、寝室の石油ストーブの上に落下した洗濯物が燃えているのを発見し、外に出て隣に助けを求めた。

事例2（栃木県岩舟町）

居住者が就寝中、電気プラグのショートが原因による火事が発生したが、住宅用火災警報器の鳴動により目が覚め、電気プラグ周囲のソファが燃えているのを確認し初期消火を行い、早期に避難したため、大事に至らなかった。

事例3（大阪府枚方市）

小学校3年の児童が、居室のホームコタツで宿題をしたあと他の部屋にいたところ、住宅用火災警報器が鳴動したので確認をすると、コタツ布団が燃えていた。児童は、風呂の残り湯を洗面器に汲み、燃えているコタツ布団にかけ初期消火に成功した。

事例4（兵庫県神戸市）

家人が前日の23時頃、布団の上にアロマキャンドルを置いて火をつけ、そのまま就寝している。翌朝6時ころにアロマキャンドルの炎が布団に引火、住宅用火災警報器の鳴動音で火災に気づき、初期消火に成功している。